

Title	かつてヘビーユーザだった
Author(s)	菊池, 誠
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1998, 107, p. 19-19
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/66252">https://hdl.handle.net/11094/66252</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## かつてヘビユーザだった

大阪大学大学院理学研究科

菊池 誠

大型計算機センターに何を望むか、というお題なんですね。僕は数年前までそれなりのヘビユーザだったんじゃないかと思うんですよ。ところがなんと昨年度は継続し忘れてアカウントを失っちゃった。一年間丸々計算機センターのアカウントなしですませちゃったのは、修士にはいって以来初めてのことで、自分でも驚いています。いや、それはいくらなんでもあんまりなので、今年はちゃんとアカウントをとりなおしましたけど。でも、結局データベースを一回使ったきりで、計算はしてないのですね（初めてバイオ系のデータベースを使ったら、高かった）。博士論文の計算をやっていた頃、東大に最初のスーパーコンピュータが導入されて、それを使って以来のスーパーコンピュータユーザだったのだけど、なんでそんなことになっちゃったんだろう。

とりあえず、なんといっても、大型計算機センター以外の共同利用研にもスーパーコンピュータが導入されちゃったというのが大きいですよ。僕たちのやってる分野だと、東大物性研究所と京大基礎物理学研究所でそれぞれVPPとSXが利用できるようになりました。当然、計算費を負担する必要はなし。科研費がはずれても、校費を使いきっても、とりあえず計算機は使わせてもらえます。ありがたいことです。もっとも、物性研はプロジェクト単位でアカウントを出すので、毎年研究計画をださなくちゃならないのですけど。こういうのは小回りが効かなくてうっとうしいと思ったりもするのだけど、幸い基研のほうはそんなうるさいこともいわないので、さらにありがたかったりして。だけどだけどだけど、無料という言葉に弱いのは誰でもおなじこと。どっちの計算機も処理能力が計算需要に追いついていないようで、混んでいるんですね。身体がなまっちゃって、待つことに耐えられなくなっちゃった僕は、そんなわけで、実は最近、こういう計算機も使っていないのでした。懐に余裕があるなら、ゆったりと大型計算機センターを使ったほうがいいかなあ、と思っておしつつある昨今。懐具合との折合いの問題ですけど。

一方、今やパーソナルコンピュータがやたらと速くなってしまいました。ベクトル向きならスーパーが速いのだろうけど、最近のPCはベクトル演算器なんていうしゃれたものをもってないだけに、スカラー計算が速い。ということは、つまり本当に速いわけです。先日、研究室のPCが実測値で400MFLOPS出しました。カタログ値ならともかく実測でこれはちょっとすごいんじゃないかと思えます。しかも、こういう計算機が数十万円で買えてしまうんですね、これが。PCなら、なにをやっても他人に迷惑を掛けることもないし、計算時間の制限もないから、何日でも計算させっぱなしにできます。こういうのに慣れてしまうと、身体がなまっちゃって、ジョブクラスとか時間制限とか利用申請とか、そういうのが面倒くさくってしょうがないですよ。それって自分が墮落したってことなんですけど。ついでにいうと、実は最近、ベクトル化向きじゃない計算をすることが多くなって、それもまたPCに向かわせる理由だったりします。さらにさらに、計算途中で絵を描かせて、状況を確認しながら計算したかったりもするので（シミュレーションなもので）、いよいよもって、身体がバッチ処理向きではなくなってきています。だけどだけどだけど、超巨大メモリージョブなら、相変わらず大型じゃなきゃだめなんだな。本当は、いろいろ言い訳しつつ、大規模計算から逃げている自分がいけないのかもしれないんですけどね。

全然、「望むこと」になってないですね。僕にとって、大型計算機センターはやっぱり大きな計算をさせる場所です。昔からそうだったし、今もそう。データベースとかネットワークとかは、その次。大規模なビデオシステムとかは、さすがにセンターで持ってもらわないと、と思えますけど。ベクトル機は重要なんだけど、僕個人にとってあんまり魅力がなくなっちゃったのが問題かなあ。大規模並列機なら使いたいかしら。使いたいかもしれないな。実をいうと、来年度はもう少し計算機センターに計算費を投資しようかと思っただけはいるのです、本当に。だけど、そのためには少なりハビリが必要みたいです。